

特集

北海道ミュージアムグッズ紀行



♡♡♡ 愛しきものたちへの旅 ♡♡♡

美術館や博物館が独自に企画・販売するミュージアムグッズが注目されている。
ミュージアムグッズ愛好家として活動する大澤夏美さんによると、
今や、グッズがミュージアムへの興味の入り口になっているとか。
北海道大学 大学院理学院には、北海道大学総合博物館のグッズを開発する授業もある。
ミュージアムを語り、人生を彩ってくれるグッズたち。この愛しきものたちが待つ旅に出よう。

グッズはメディア

札幌在住のミュージアムグッズ愛好家、大澤夏美さんがこれまでに収集したミュージアムグッズのコレクションは千個以上に上る。「映画で言えばグッズはミュージアムの展示を見た後のエンドロールだと考えてきましたが、SNSによる発信が盛んになった今、グッズがミュージアムへと誘う入り口にもなっています」と、大澤さんは言う。P.6のアルテピアッツァ美唄、ウポポイ（民族共生象徴空間）、神田日勝記念美術館、野付半島ネイチャーセンター、三浦綾子記念文学館、渡辺淳一文学館のグッズは大澤さんのコレクションだ。いずれ



著書『ミュージアムグッズのチカラ1,2』で旋風を巻き起こした大澤さん。テレビ番組「マツコの知らない世界」にも出演した。出版予定の『ミュージアムと生きていく(仮)』で、ミュージアムとの多様なつながり方を伝えたいという。

(写真上) 北方先住民族が獣皮で作るモカシンを、北海道立北方民族博物館が体験学習用にベビーサイズの製作キットとして開発した(写真は完成品、長さ約12cm)。中学校家庭科の乳児との触れ合い授業で完成品をプレゼントする学校もある。1,500円。●北海道立北方民族博物館 / 網走市字潮見309-1 ☎0152-45-3888、9:30~16:30、月曜(祝日の場合は開館し、翌平日休館)、年末年始休館。開館時間、休館日とも時期により変更あり。一般550円、大学生・高校生200円。表記の金額は全て税込のみです。

文=北室 かず子
写真=田淵立幸



1・2.『失楽園』の直筆原稿がプリントされた失楽園ハンカチ1,650円、日本画家・原萬千子氏による装丁原画の一筆箋やチケットホルダーも人気。本を買ったら付けられるブックカバーはサイン入り原稿用紙を、包装用袋のシールは落款(らっかん)をデザインしたもので記念になる。



神田日勝記念美術館は鹿追町で農業に従事しながら絵画に向き合い、32歳の若さで病没した神田日勝の美術館。《馬(絶筆・未完)》は半身が未完成で日勝の壮絶な生き方を象徴している。クリアファイル350円、ミニキャンバス950円、タンブラー2,750円など。写真提供=神田日勝記念美術館



彫刻家・安田侃(やすだ かん)氏の出身地、美唄の旧小学校を再生させた安田侃彫刻美術館 アルテピアッツァ美唄のオリジナルトートバッグ。大澤さんのお気に入り「妙夢」のオリジナルデザインが入ったもの。3,000円。



豊かな自然が息づく野付半島のタンチョウ、オオワシ、オジロワシなどの野鳥を表現した野付半島ネイチャーセンターのピンバッジ。ポップな色調、マトリョーシカを意識したフォルムでありつつ、野鳥の特徴を正確にとらえている。各550円。

三浦綾子記念文学館は三浦綾子文学を広く伝え、読む人の心の糧となることを目指し誕生した民営文学館。デビュー作「氷点」の舞台、外国樹種見本林をイメージさせる「はぐりら 森のミスト」は、アカエゾマツの香りがベースで森の精気がリフレッシュ気分をもたらしてくれる。30ml 2,200円、はぐりらのしおり660円。



写真左から、国立アイヌ民族博物館のミュージアムショップ、ムックリ演奏。ともに写真提供=(公財)アイヌ民族文化財団

右手にトゥレプアカム(オオウバユリの円盤)を、左手にトゥレプの茎を持つウポボイPRキャラクター「トゥレップン」のボールチェーン マスコット マタンブ付き950円、国立アイヌ民族博物館オリジナルの伝統楽器「ムックリ」1,000円。



も自館の意義と収蔵品を究め尽くした学芸員が、世に出したものである。大澤さんいわく「標本や収蔵品の重要性を上手に伝えているグッズに出会うと、博物館全体に興味がわき、行ってみたいと思わされます。グッズの力を使えば地域の垣根、ジャンルの垣根も越えられるのではないだろうか」。

札幌市立大学デザイン学部在中、学芸員資格を取るために北大総合博物館で実習をしたのがミュージアムグッズに目覚めたきっかけ。『展示までのプロセスを展示しよう』というユニークな課題で、北大キャンパスのいたるところに罌(わな)を仕掛けて昆虫を捕獲し、顕微鏡でぞいて分類し、標本を作っていました。デザイン学部の私にはとても新鮮で、博物館の収集・保存・研究・展示・教育の役割も実感できました。そんな学びを通してミュージアムグッズは博物館の魅力を映し出すメディアなんだと気がついたのです。その後、北海道大学大学院文学研究科(当時)に進学し、ミュージアムショップの研究で修士課程を修了。現在は、北大博士課程に在

両足で飛び跳ねて移動する習性があるキタイワトビペンギンの動きを間近で見られる。六角形の展示ブロックを用いて陸場の形状を変化させる展示システムは世界初だとか。



5.バンドの色で識別している館内のキタイワトビペンギンと同様に、ぬいぐるみにもバンドを装着できる。例えばピンクは北斗市、赤十紫は北見市。ぬいぐるみ2,480円、バンド500円(ぬいぐるみとセットで購入すると350円)。6.浮遊するクラゲたちが日常を忘れさせてくれる。7.「ネイチャーアクアリウム」は水草を1本ずつ植えて作り上げた“生きている水槽”。美しい水中景觀に癒やされる。



3



4

3.居心地のよい渡辺淳一文学館1階のカフェスペースはランチも人気。
4.2階展示室には渡辺淳一の創作の歩みが展示され、映画化・ドラマ化された際の女優たちの写真も必見だ。
8.北海道立北方民族博物館のロングセラーグッズ、先住民族コリヤークの手仕事、ビーズ刺繍のキーリング3,000円。



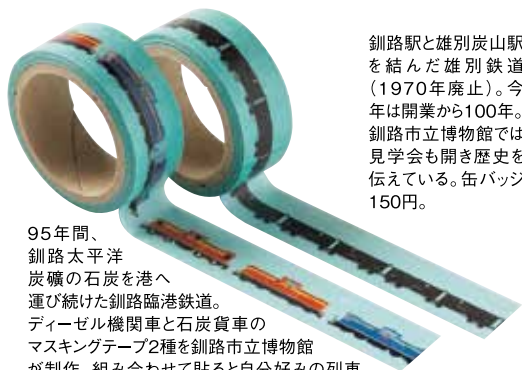
8

籍しながら、ミュージアムグッズに関する執筆や講演を精力的に行っている。大澤さんは、本を執筆するための取材で出会った高校生の言葉が忘れられないという。「博物館は競争する場所じゃない。自分を受け止めてもらえる場所」。大澤さんいわく「博物館はみんなの居場所なんです。ぽーっとする場がいい。市内でよく足を運んでリラックスしているのが渡辺淳一文学館です。自然光の入るカフェで食事をしたり、書架の本を読んだり。安藤忠雄が手掛けた建築で、心が落ち着きます」。そんなミュージアムへと誘ってくれるグッズを探ってみよう。

百花繚乱のグッズたち

今夏、札幌市中心部にオープンしたAOAO SAPPOROは、地球上で青々と繁茂する多種多様な生命のワンダーに出会えるという水族館。水草の森を行き交う魚たち、幻想的なクラゲ水槽など、都会の真ん中で生命の輝きに癒やされる。地域とのつながりを大事にする同館では、キタイワトビペンギンに道内市町村の名前を付けており、そのぬいぐるみをカラフルなバンドで自分の「推しペンギン」にカスタマイズできる。ちなみに動物園や水族館においてぬいぐるみはグッズの王道だが、生物の正確な特徴と、ぬいぐるみとしてのかわいらしさの両立に、先人たちは知恵を絞った。AOAO SAPPOROのキタイワトビペンギンも、りりしい冠羽と黄色い飾り羽が巧みに表現されている。

六百種近くものミュージアムグッズを開発してきたのが、北海道立北方民族博物館だ。一九九一年(平成三)の開館当初は絵はがきとテレホンカードのみだったのだが、



95年間、
釧路太平洋
炭礦の石炭を港へ
運び続けた釧路臨港鉄道。
ディーゼル機関車と石炭貨車の
マスキングテープ2種を釧路市立博物館
が制作。組み合わせて貼ると自分好みの列車
編成が作れる。各500円。

走行する列車内で郵便
物の仕分け作業を行
いながら目的地へ向かう郵
便車。釧網線でもス
ヌニ61(60)による郵便輸
送が行われた。釧路市立
博物館制作の缶バッジ
150円。



釧路駅と雄別炭山駅
を結んだ雄別鉄道
(1970年廃止)。今
年は開業から100年。
釧路市立博物館では
見学会も開き歴史を
伝えている。缶バッジ
150円。



道東地域を支えた簡易鉄道や、釧
路臨港鉄道石炭列車の缶バッジ
各100円。



サケの町、標津町にある標津サーモン科学館はサケ
科魚類展示種類数日本一を誇る。オスサケの勇猛な
鼻曲がりの風貌を表現したクリップは、紙をはさむと目
の存在が際立ち、サケ度がアップする。世に蔓延する
サケのイラストにアブラビレ(背ビレと尾ビレの間にある
小さなヒレ)がないものが多いという学芸員の義憤
も込められている。使い切った後、いろいろ使えそうな
金属製ケースもうれしい。660円。



北海道博物館は、北海道の自然・歴史・文化を紹介す
る北海道立の総合博物館。数多い展示の中でも注目
度の高いナウマンゾウ、マンモスゾウの復元骨格標本
をデザインしたコースターは北海道産の珪藻土で作ら
れており、水滴をすばやく吸い取ってくれる。726円。



博物館 網走監獄は、中央見張所を中心に放射状に建つ舎房、庁舎など国の重要文化財8棟、登録有形文化
財6棟を含め25棟の建物を保存公開している野外歴史博物館。1896年以降の歴史ある建物群の美を、光と影
をテーマに写真家・並木博夫氏が撮影した博物館の写真集。3,300円。写真提供＝博物館 網走監獄



石川啄木をはじめとする函
館ゆかりの作家の自筆資料
や品々を通して函館の魅力
に触れられる函館市文学館。
ここでしか見られない貴重な
資料を求めて全国から来館
者がある。元銀行だった
1921年建築の建物も魅力だ。
一筆箋には啄木も寄稿した
函館の文芸結社「苜蓿社
(ぼくしゅくしゃ)」の同人誌
「紅苜蓿(べにまごやし)」の
花が描かれている。200円。

写真提供＝函館市文学館

二〇〇二年(平成十四)、土産品業
者の提案で所蔵資料をもとに携帯
電話ストラップを作ったところ、人
気商品になった。また、革細工専門
家の協力で、カムチャツカ半島付
近に居住する先住民族コリヤーク
のビーズ刺繍をあしらった皮革工
芸品もできた。さらにこの頃から

体験学習が増え、無料提供してい
た材料をキットの形で販売したと
ころ好評を博し、商品化の道が開
けた。モカシンキットは、中学校
家庭科教諭の依頼を受けて開発し
たもので、複数の学校授業で使わ
れている。やがて時代は、ミュージ
アム運営の観点からも、収益の出
るグッズへの関心が高まってい

釧路市立博物館では、他館の商
品として見たときに自分が欲しい
と思うかどうかを常に念頭に置き
てデザインや使い勝手を考えるそ
うだ。地域の文化資源をモチーフに
した缶バッジは地元PRの材料にも
なる。子どものお小遣いでも買い
やすい価格設定で、博物館と郷土への
意識醸成にも寄与したいそうだ。

登録マリンパークニクスでは、
超レアな三種のグッズが各百円
のカプセルトイから出てくる。①
ペンギン羽根のしおり(生え替わ
りで落ちた羽根を券売所スタッフ
がラミネート加工したもの)、②
アナコンダ脱皮殻のお守り(脱皮
した殻をラミネート加工したもの)。

ウポポイ（民族共生象徴空間）

鱗の模様は部位によって異なり、世界に二つと同じものがない。古来、蛇皮には金運上昇、魔除けの御利益があると伝えられている。③トンネル水槽を泳ぐ大型サメ「シロワニ」の歯（非常に珍しく潜水掃除の時にのみ発見できる）。以上は引き当てた時のお楽しみのため、あえて写真掲載を控えたい。



写真提供＝帯広百年記念館

十勝・帯広の総合博物館である帯広百年記念館では十勝開拓の先駆者・依田勉三のグッズを手でできる。依田を中心に静岡県で結成された晩成社は1883年、帯広へ入植。牧場を開いてバターや練乳を製造し、遠く東京にまで売り出した。進取の気性を物語る、練乳レッテルをあしらったTシャツ2800円。依田と晩成社が用いた多彩なハンコの印影を並べたマスキングテープ400円。



大正期の作家・有島武郎の足跡を紹介する有島記念館。小誌表紙の藤倉英幸氏の作品を約1万点所蔵。グッズ用に描かれた北海道の花々のトートバッグ1,500円。鉄道グッズもある。



北海道開拓の村は、明治から昭和初期に建てられた北海道内の建造物を54.2haの広大な敷地に移築復元・再現した野外博物館。開拓にちなんだ馬の蹄鉄や開拓の鎌の絵柄が滑り止めにあしらわれた重手なら開拓者精神で作業もがんばれそうだ。330円。

では、国立アイヌ民族博物館のミュージアムショップでアイヌ民族の伝統工芸品を販売している。道内各地の作家が制作したもので、ムックリも令和元年度文化庁長官表彰の鈴木紀美代氏の手作りだ。ミュージアムグッズは、アイヌ文化への理解を進め、アイヌ民族の伝統と技術の継承に役立っている。

このほか、帯広百年記念館、標準サーモン科学館、博物館網走監獄、

グッズに挑む

函館市文学館、北海道開拓の村、北海道博物館からも、筆者がときめいたグッズを紹介させていたたく。さらに小誌連載の小樽山博氏の絵はがきセットも小樽山博文学館のある滝上町で「文学の故郷会」が作り、道の駅「香りの里・たきのうえ」にて販売されている。グッズはまさに百花繚乱だ。

北海道大学ではミュージアムグッズの開発が大学院の授業になっている。担当する教授の湯浅万紀子さんは「大学に総合博物館があり、ミュージアムショップがあることを利用して、学生のコミュニケーション能力やグループワークの力を身につけるコースの中の『博物館コミュニケーション特論』という授業です。理学院の専門科目でありながら観光学、芸術学、建築学など、普段は出会えない異なる専攻の大学院生が、それぞれの専門知識やデザイン、マーケティング、マネジメントなどの得意分野を生かしてグッズ開発に取り組むのです」。



北海道大学総合博物館のミュージアムショップ「ぼとろ」。学生企画グッズは約20種で新作を楽しみにしているファン多数。

ショップの運営事業者も随時、コストの観点からアドバイスする。実現できなかった事例が示され、学生たちは厳しい現実をかみしめてから、授業が始まる。

湯浅さんと共に指導にあたる助教の北野一平さんは「受講生は約二十名。グッズの開発にはデザインの技術や専門性が必要ですが、一番大事なのは作り上げるといって、熱意、ミュージアムへの熱意だと思っています。一致団結して、波乱万丈な過程を乗り越えていくところに教育の意味があります。私の専門の岩石鉱物学でも岩石標本に文学部の学生は宮沢賢治をイメージしたり、学生によって発想が多様なので可能性の広がりを感じます」。

そんな中で、ミュージアムショップ

プの側から、販売のみならず館内カフェでも使用するマグカップ開発の要請があり、修士課程二年の菅原さんら六人のグループが取り組んだ。菅原さんいわく「カフェで提供されているコーヒーの量をもとに大きさを決め、積み重ねてストックしやすい形にしました。デザインは、北大総合博物館といえば、まず

北海道大学総合博物館3階の白天井はアイシンシュタインドームと呼ばれ、四面に朝・昼・夕・夜を象徴する果物、ヒマワリ、コウモリ、フクロウの絵柄の陶板製レリーフが掲げられ、昼も夜も教育・研究に励もうという理学部開学（1930年）の心意気を示すものと伝えられている。4つの絵柄を描いた学生企画の豆皿。4枚セットで2,223円（発売当初価格。現在欠品中）。



北海道大学総合博物館の玄関前で右から湯浅さん、菅原さん、北野さん。同館は1929年（昭和4）11月竣工の理学部本館として建てられたもので北大最古の鉄筋コンクリート建築である。

建物。外壁のスクラッチタイルを写真に撮って、ペイントソフトで仕上げました。そこに展示物・標本のニッポノサウルス、ケナガマンモス、水産学部附属練習船『おしよる丸Ⅱ世』の舵輪（だりりん）を加えました。もともと博物館が好きでしたから、自分が当事者になったのがうれしいです」。湯浅さんはこう語る。「一方で、半年

間、懸命にがんばったのにグッズ化できなかった学生たちもいます。その中の一人の『たしかに残念。しかし専門の違う学生が集まって、一つのミッションに向けて取り組めたことから力をもらいました』という言葉が心に残っています」。湯浅さん自身、学生時代に母校の東京大学で大学博物館の展示を作り、ワーク



1.菅原さんらのグループが開発したマグカップ。風格ある博物館建物と展示物・標本を組み合わせた。940円。2.学生企画のグッズに必ず添えられる解説シート。学生が文章を書き、専門の研究者がチェックするので学術的にも完璧だ。

ショップ運営や展示評価を行うなど、さまざまなグループワークを実践してきたことが自分の中で生きているという。「ミュージアム体験についての私の研究でも、過去・現在・未来と、人生をミュージアム体験が彩り、グッズのことを熱く語る人が多いです。北大で博物館教育として、学生、教職員、そこにショップ運営事業者が加わり、協力し合ってグッズを制作できたことを、私自身、とてもうれしく思っています」。

●

ミュージアムへと誘い、ミュージアムの記憶を永遠に留めてくれる愛しきものたち。それは後々まで人生を彩り続けるだろう。グッズ

が開く扉は限りなく大きい。



北大総合博物館に展示されているニッポノサウルス（復元骨格）は、1934年、サハリンで発見され、1936年に北海道帝国大学の長尾巧教授によって命名された。日本人が初めて発掘・研究・命名した恐竜であり、北大が日本の恐竜研究の先駆けであることを物語る。これがマグカップの図柄に入っている。